

産地景況を読む

丸井織物 社長
宮本 徹 氏



登町)の宮本徹社長に、
産地の景況と同社の今年
の課題を聞いた。

年余りの間、
生産調整を強
いられました
た。ここにき
て産地の規模
縮小、在庫調
整進展、為替
の円安などが
追いつかない
産地の景況と
同社の今年
の課題を聞いた。

当社は生産こそ前期も
20台のエアシュットは
フル稼働が続きました
が、内容(織工費、利益)
の悪化が目立ち、12年12
月の期は減収減益、とくに
収入面では賃加工ベース
で前期比14~15%低下し
ました。13年度は売上高
で横ばいプラスαを目指
します。

加工系系、緯系綿系など
の織物を手掛けていま
す。レピア織機は開発用
に1台備えています。ス
ポーツ素材やパンツ素
材などの試織を積み重
ね、営業生産に生かして
います。

多くの古い織
機で機械のメンテナンス
や人手の確保を考えれば
再稼働には疑問符が付き
ます。そうしたなかで、
再生産していくためには
産地で蓄積したノウハウ
を駆使して新技術・新商
品の開発が欠かせませ
ん。

系と加工反の中間にいる
強みを生かしていき
たい。
アパレル企業との取り
組みは、染工場や商社と
の連携を基本に進めてい
ます。能登の本社工場に
東京や関西からアパレル
企業の企画・生産担当者
が商談のために訪ねてく
るようになっていま

ダウンジャケット用を
中心とする織物生産で堅
調だった北陸産地もこの

1年余り、生産調整を強
いられてきたが、調整の
進展で昨年末からやや好
転の兆しがみえてきた。

日本最大の織布機業であ
る丸井織物(石川県中能

長い生産調整を
経て産地はやや薄日
が差してきました。
2011年秋から好調
だったダウンジャケット
用の軽量・高密度・薄地
織物にかけりが生じ、ユ
寄せています。

見られるようになりまし
た。機業の受注量も増え
ています。当社では3月
まで織布スペースが埋ま
り、4月以降にも期待を
寄せています。

国内にグループ機業を
含めてウオータージェツ
トを中心に約1300台
の織機がありますが、生
産量の6割がスポーツ・
カジュアル、2割が非衣

新技術・新商品の掘り
起こしを重点テーマに位
置づけています。産地全
体の考えると、数量が以
前の状態に戻ることには
あきらむべきかをテーマに

販売が主であっても、
値上げが予想され、これ
を価格にいか転嫁する
かなど難しい問題もあり
ますが、織布のプロとし

て新技術・新商品開発に
努める考えです。

ノウハウ駆使し新商品開発

ニフォーム地や裏地も連
れ立って悪化するなど1
徹は。

貴社の業績の特
料、残る2割が裏地ほか
の構成です。このうち1
も2~3割の織機が止ま

流れを重視しています。

努力の考えです。

努力の考えです。

努力の考えです。

努力の考えです。